

# 郷土の歴史を知ろう！ Part 2

もしかして赤石の地下に平泉級の街並みが埋もれているのかもしれない！

☞ 裏面の新聞コピーをご覧ください。・・・

## 『樋爪氏と平泉の関係』

講師 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター文化財専門員

羽 柴 直 人 氏

期 日 平成 22 年 1 月 31 日 (日曜日)

午前 10 時から

会 場 紫波町北日詰字八反田 (JR 日詰駅から徒歩 2 分)

赤石公民館 TEL 019-676-3999

主 催 赤石地区ひづめ館懇話会・紫波郷土史同好会・紫波町平泉関連史跡連携協議会  
紫波町赤石公民館

※ 準備の都合上、FAXまたは電話で、1月25日(月)までに、お申し込み願います。

(当日の参加申し込みも受け付けますが、資料をお渡しできない場合がありますので予めご了承ください。)

FAX・電話番号 019-676-3999

講演会「樋爪氏と平泉の関係」参加申込書

氏名		電話番号	
住所	〒		

# 紫波の地下にもしかして 平泉級の都会跡？

## 奥六郡の支配者は樋爪氏かも

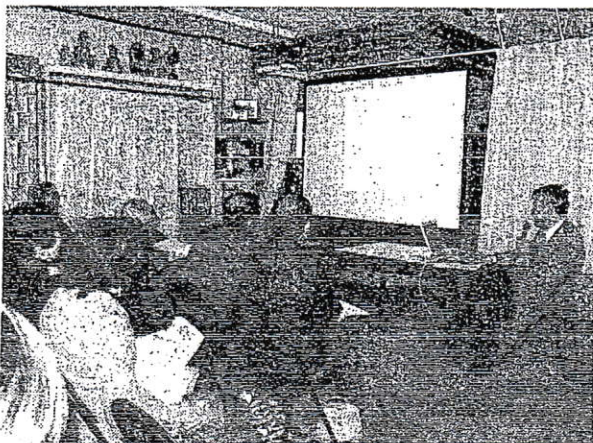
### 羽柴さん(県埋文センター)が大胆仮説

ひのやサロン鈴の音歴史勉強会(よんりん舎主催)が20日、紫波町日詰郡山駅同サロンの開かれ、県文化振興事業団埋蔵文化財センターの羽柴直人さんが樋爪館と平泉だけに見られる共通点を紹介した。

平泉と樋爪館跡から出土した手づくねのかわらけを比較し、「どちらも京都風のかわけ。樋爪は赤っぽい色をしている。色の違いがある」といふことは、別々に作り樋爪氏もかわらけを作る独自の工

場を持つていたことになり。柳御所の住民が持っている物は樋爪館を始めたところと中国産の白磁や青磁がたぐさん出ているが、それらは樋爪館でも出ている」と語った。

平泉で出土している渥美、常滑、珠洲、水沼の各産地の国産陶器が、樋爪館からも出土していることを紹介し、「水沼産の陶器は平泉の藤原氏が自分たちが使う御用窯をわざわざ作らせたもの。その製品が樋爪でも出ている。水沼窯の製品は平泉と樋爪にしか出てい



樋爪館について語る羽柴直人さん

の住民も必ず持つてい」と説明した。

「平泉で建物や軒を連ね、道路が格子状に通っているのは柳御所や毛越寺を含めて約1キロ四方の範囲。樋爪は樋爪館、五郎沼、東側は北上川まで遺跡の広がりが予想される。本格的に調査すれば、都市が埋もれているのかもしれない」と、都市構造が平泉と非常に似通っていると考えていることを明らかにした。

平泉と比べて十分な発掘調査が行われていない。このため資料不足であることを話した。

上で「平泉と樋爪の関係は主従ではなく、樋爪氏は独自の基盤を持つていた権力かもしれない。奥州藤原氏は奥六郡の外を抑え、12世紀に奥六郡を抑えていたのは樋爪氏ではないかと思つ」と大きく広げた推定を展開してみた。

## 赤石地区ひづめ館懇話会 会員募集中

この会は、平成20年度赤石地区創造会議「歴史班」に参加した有志により結成しました。会の詳しい活動内容や会員募集のパンフレット及び入会申込書用紙は、赤石公民館に用意しています。

〒028-3309 紫波町北日詰字八反田57 TEL/FAX 019-676-3999